

平成25年度 東祖谷小・中学校の実践

徳島県三好市教育委員会
(学校評価フォーラム 資料)

I 三好市の概要

平成18年3月に、徳島県三好郡の三野町・池田町・山城町・井川町・東祖谷山村・西祖谷山村が合併して三好市が誕生した。

(1) 三好市内の小中学校（6中学校 18小学校）

平成25年4月現在

中学校	小学校	旧町村
三野中学校	王地小学校 芝生小学校	三野町
池田中学校	池田小学校 箸藏小学校 白地小学校 三縄小学校 馬路小学校 川崎小学校	池田町
山城中学校	山城小学校 下名小学校 政友小学校 大野小学校	山城町
井川中学校	辻小学校 井内小学校 西井川小学校	井川町
東祖谷中学校	東祖谷小学校	東祖谷山村
西祖谷中学校	櫟生小学校 吾橋小学校	西祖谷山村

(2) 三好市教育振興計画について

三好市では、一貫性のある教育、改正教育基本法の理念や新しい三好市の「まちづくり」の視点から「三好市教育振興計画」を策定し、次のような基本理念で、教育改革を進めている。

基本理念「郷土を愛し、生涯を通して『学び』を実現する教育の創造」

～ 基本目標・一人ひとりが輝く、活力のある教育の推進 ～

めざすべき教育の柱を『生涯学習』『学校教育』『教育環境』の3つと定め、実態を踏まえながら、地域の特性を生かした魅力ある教育を推進することを基本方針としている。

基本方針2（学校教育） たくましく、未来にはばたく子どもの育成

「豊かな心」「確かな学力」等の『生きる力』の育成を図るため、地域の特性を生かした特色ある学校づくりを推進する。

II 研究のねらい

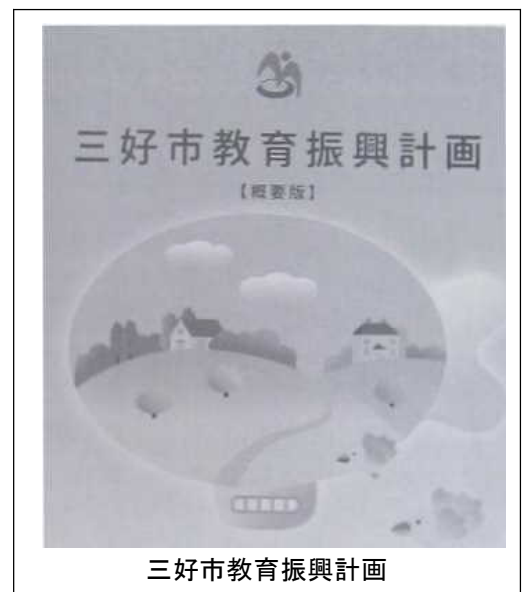
三好市教育振興計画の中の基本方針2に次のような具体的実践施策が示されている。

(1) 「学校評価システムの確立と推進」

- ①学校評議員における学校評価システムの確立
- ②学校評価の公表（HP等）
- ③地域ぐるみで学校改善をめざす学校運営

(2) 「学校支援ボランティア体制の確立」

- ①学校評議員制度の充実
- ②人材バンクの設立・活用
- ③各地域（中学校区）の学校支援体制の確立



以上のことを踏まえ、「学校評価の充実・強化に関する実践研究」（委託事業）を東祖谷小・中学校をお願いし研究を進めることにした。

今回の東祖谷小・中学校の“小・中学校が連携・協働した学校関係者評価の体制整備による学校のマネジメント力を高める取組”が市内各校のモデルとなって波及していき、市内すべての学校のマネジメント力が高まっていくことになると考えている。また、研究の成果が、上記の具体的実践施策を実現し、三好市の教育が進展することにつながっていくと期待している。

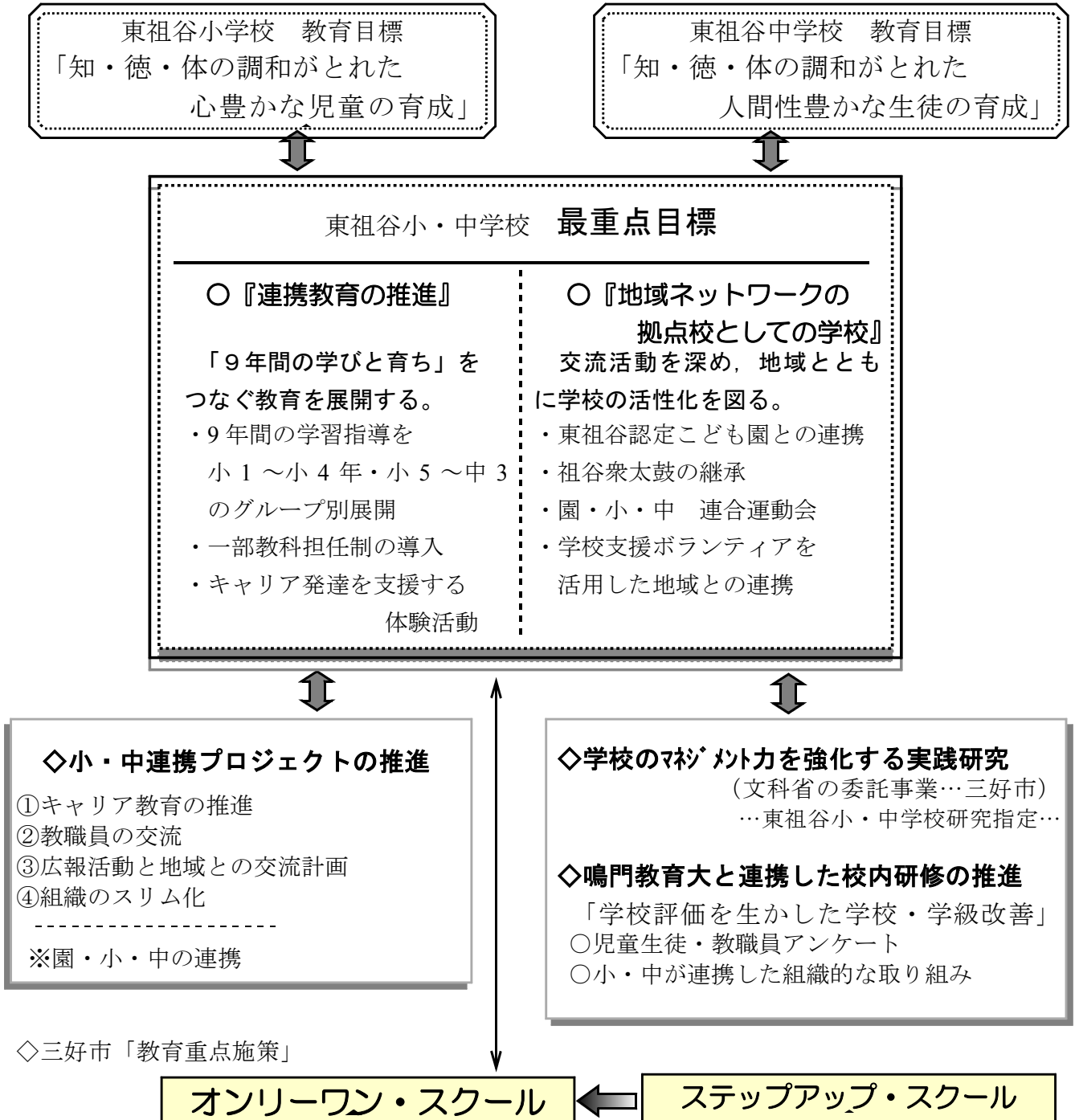
Ⅲ 研究実践（東祖谷小・中学校の実践）

東祖谷小・中学校は、小学校児童45名・中学校生徒16名の小規模校である。平成24年4月より、小中一体型校舎で「小・中連携教育」を展開している。



東祖谷小・中学校(小中一体型の木造校舎)

平成25年度 最重点目標



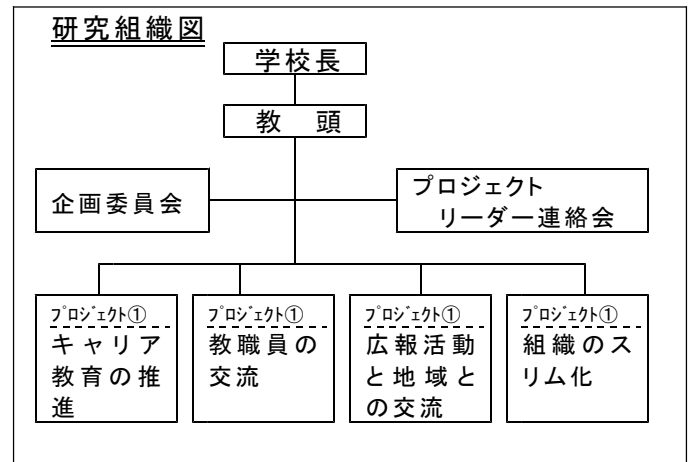
学校の長期的な目標(オンリーワン)と学校の短期的な目標(ステップアップ)の明確化を図り、特色ある学校づくりを推進する。その実現については「学校評価」を適切に行い、計画的に実践する。

(1) 小・中連携プロジェクトの推進

平成24年度は、5小学校の統合及び中学校との併設という環境で学校がスタートした。小中一体型校舎で学ぶ子どもたちも教える教師たちも、今までに経験したことのない環境であった。

小・中連携を進めるために教職員がそれぞれの学校（小・中）を相互理解しなければならないという問題もあったが、経験の少ない教師が多く、教職員のスキルをあげなければならないという課題もあった。

そこで、本校の置かれている現状や課題を、小中の全教職員が客観的にとらえることからはじめた。**(R：リサーチ)**そして、“次年度の本校（小・中連携）の姿”をイメージしながら、最終的には、次のような4つのプロジェクトを推進することにした。**(P：計画)**



- ①キャリア教育の推進 ②教職員の交流
③広報活動と地域との交流計画 ④組織のスリム化



教職員のスキルアップのための小中合同研修



プロジェクトリーダー連絡会

平成24年度は、各プロジェクトごとにリーダーを中心に研修を進めていった。**(D：実行)**
また、教職員へのアンケート等から、物理的な問題点や心理的な問題点も把握した。**(C：評価)**

平成25年度は、教職員の協働意識を高め、いろいろな課題を解決しながら、小・中連携教育を実践していった。**(A：改善)**

行事での交流はもちろん、小学校高学年に「一部教科担任制」を導入した。平成24年9月に開園した『認定こども園』との連携も進めていった。

◆「連携教育」の活動事例（平成24・25年度）◆

- 「園・小・中」連合運動会
- 「園・小・中」合同避難訓練
- 園・小(低学年)の交流活動
- 小・中合同入学式
- 小・中合同人権集会
- 小・中合同食育集会
- 小・中交流給食
- 小・中合同クリーン登山(剣山)
- 人権意見発表会(中)への小学校高学年の参加
- 生徒会選挙(中)への6年生の参加(投票)
- 文化祭(中)への小学生の参加
- 中学生による本の読み聞かせ
- 小・中合同体育(小5～中1・小5～中3)

◆ 「連携教育」(活動) のようす ◆



「小・中」合同入学式



「園・小・中」連合運動会



小・中合同人権集会



中学生による「絵本の読み聞かせ」

小学校6年生の授業はこうなります！

国語(福田・多田) 算数(福田・岩山) 社会(福田)
理科(大谷) 音楽(平尾・西尾) 図工(多田)
家庭(伏平) 体育(福田・角野) 総合(福田・西尾)
書写(谷口) 外国語(多田・アダム)

…6年担任(福田)…

※多田・岩山・大谷・伏平(中学校教諭)が小学校授業への
乗り入れを実施している

「一部教科担任制」の導入



小中合同体育(小5~中3)

(2) 小・中学校が連携・協働した学校関係者評価

① 小・中学校が連携するための体制づくり

◇小・中別々であった PTA の組織を一つにし、PTA 組織を強固にした。

◇学校評議員も小・中で一本化し、学校評価を一元化した。

◇「校内評価委員会」「学校関係者評価委員会」も小・中合同で組織し、学校評価システムを充実した。

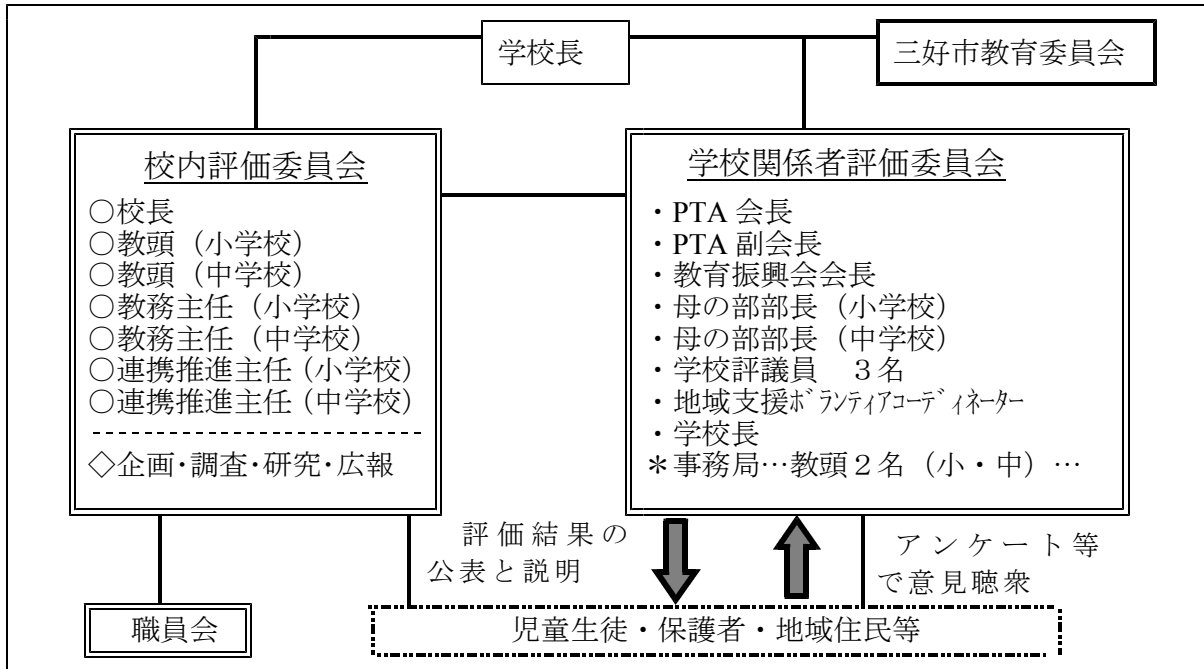
◇東祖谷小・中学校のホームページも小・中を一元化した。



東祖谷小・中学校のHP(トップページ)

②学校関係者評価委員会

学校評価（実施体制図）



「学校関係者評価委員会」を年3回開催した。この会には、三好市教育委員会からも1名が出席し、市教委と学校との連携を図りながら、学校評価の充実に努めた。

- 1) 第1回学校関係者評価委員会 平成25年7月3日
 - ・東祖谷小・中学校「学校関係者評価委員会設置要綱」の確認
 - ・東祖谷小・中学校の学校経営の説明（本年度の最重点目標等）
 - ・児童・生徒の生活についての意見交換
- 2) 第2回学校関係者評価委員会 平成25年12月12日
 - ・学校評価アンケートについての検討
 - ・児童・生徒のようすについて（児童・生徒アンケート結果の報告）
- 3) 第3回学校関係者評価委員会 平成26年2月3日
 - ・学校評価結果についての協議（分野別評価…三好市学校評価ガイドラインに基づき4分野で評価）
 - ①学校経営・学校運営に関する評価
 - ②教育目標及び教育計画に関する評価
 - ③主要な教育活動に関する評価
 - ④保護者や地域との連携に関する評価



第3回学校関係者評価委員会のようす

学校評価アンケート
…小学校保護者…

小中連携について

	項 目	A	B	C	D
1	小中の交流行事の回数は適切である。				
2	交流行事で児童は、中学生と協力して活動できている。				
3	交流行事での活動は子どもたちの成長にプラスとなっている。				
4	自由記述 ・小中の交流行事・学習を通して、子どもたちが成長するのはまちがいない。				

学校評価アンケートから抜粋



校長だより 小・中 連携



学校評価--子どもたちがより良い教育を受けることができるよう、その教育活動等の成果を検証し、学校運営の改善と発展を目指すための取組(文部科学省)

学校評価は、すべての学校で実施することが義務づけられています。学校を評価するためにはいろいろな方法があります。子どもたちや保護者へのアンケートや行事の感想、個人懇談等での聞き取りもその一つです。全ては、子どもたちのよりよき教育のためです。

本年度、本校では「小中連携教育」(9年間の学びと育ち)等についての成果を検証する必要があります。そこで、専門性の高い大学教授のアドバイスを受けながら取り組んでいきたいと考えています。例年よりアンケート等をお願いすることが増えるかもしれませんがご協力よろしくお願い致します。



大学教授を講師に「小・中合同研修」

「学校のマネジメント力を強化するための実践研究」
～学校評価の充実・強化に関する実践～
(文部科学省が三好市に委託…東祖谷小・中学校指定)

↑
上のような事業が本校に決定しました

学校評価について知らせる「学校だより」

(3) 「学校評価を生かした学校・学級改善」…鳴門教育大と連携した小中合同の校内研修

平成24年度より「小・中連携プロジェクト」を中心に連携教育を推進している。それに加えて平成25年度は、本校の子どもの実態(よさや課題)を全教職員が把握し、その上で「子どもたちに育てたい力」を共有することが重要であると考え、鳴門教育大学の久我直人教授の指導による小中合同の校内研修を進めた。

1) 第1回目「小・中合同研修」 平成25年5月23日

・『東祖谷小・中学校の可能性』についての講義…45分×2コマ

東祖谷小・中学校の子どもたちは ①15才で巣立つ(独り立ちの必要性)

②少人数で育ちながら、厳しい社会に出て行く



○求められる精神的な強さ ○生き抜く社会的スキル

2) 第2回目「小・中合同研修」 平成25年8月29日

①『東祖谷小・中学校の子どもたちに育てたい力と組織的な取組』についての講義…70分

②グループによる意見交換研修…70分(「よさ・課題+育てたい力」を中心に意見交換)

③全体会…15分(各グループからの報告・まとめ・今後の見通し)

3) 第3回目「小・中合同研修」 平成25年12月17日

①『東祖谷小・中学校の9年間のグランドデザインを考える』についての講義…45分

②グループによる意見交換研修…45分(各学年で育てたい「学びづくり」「生活づくり」)

③全体会…10分(各グループからの報告・まとめ)

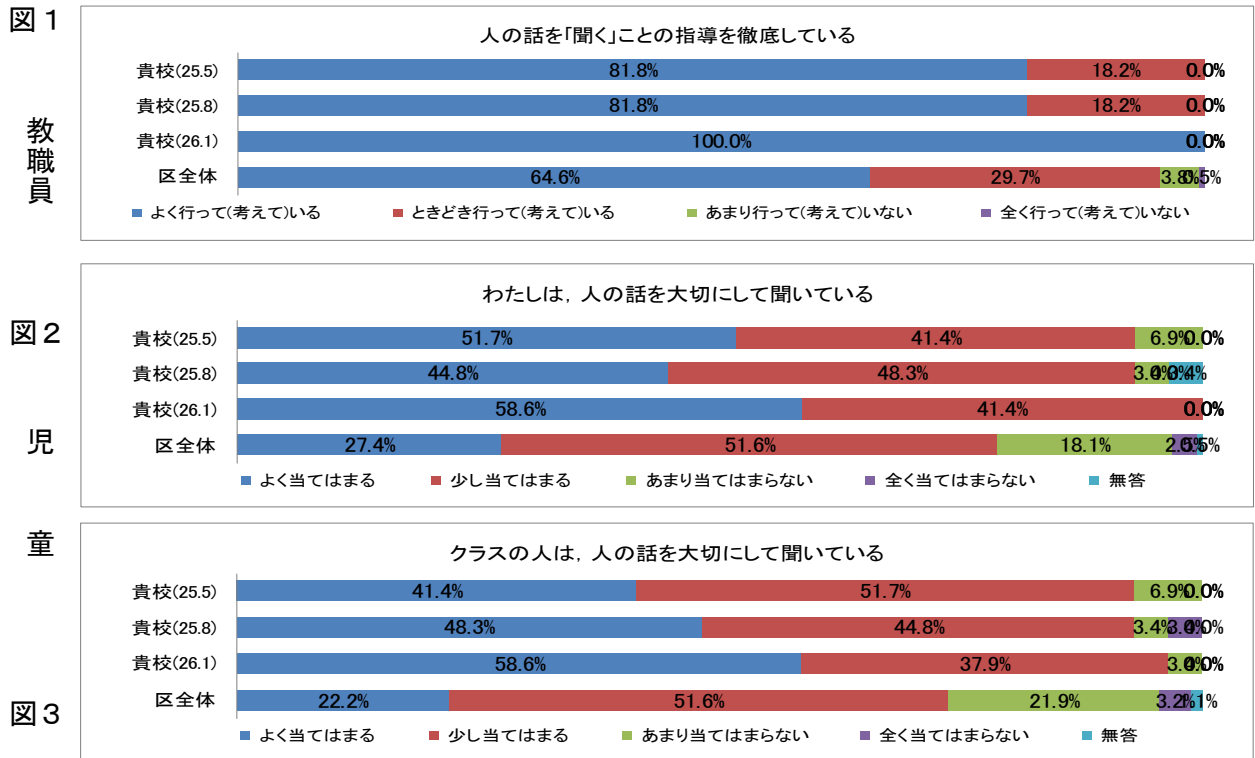
児童・生徒・教職員にアンケートを実施し、子どもの実態把握(R:リサーチ)からスタートし「育てたい力」について2回目の研修で意見交換した。その後、10月の小中合同校内研修で『組織的な取組』について、全教職員で協議し、次のように決定した。(P:計画)

「生活」「学習」「心」の3つの観点から、組織的な取組を実践することとした。その中の「学習」については、次のように決定し組織で取り組んだ。(D: 実行)

- ・育てたい力…「進んで学習に取り組む」人に
- ・組織的取組…「聞き方」「話し方」「考え方」のスキル表を作成し、実践していく。

その結果、組織で徹底して取り組んだ成果(C: 評価)が、「聞き方」については、児童・生徒教職員のアンケート結果にも表れている。今後は、学年に応じた「話し方」「考え方」の向上をめざすことが必要である。(A: 改善)

東祖谷小学校の結果↓



10月以降、小学校の全ての教職員が、「人の話を聞く指導」を徹底した。(図1) その結果、「人の話を大切にしている」児童が、大幅に増えている。(図2・図3)

「話し方」

★相手をみて 声の大きさ 間の取り方に注意して はっきり話します

1 正しい姿勢で話します

2 話し出す合図をします

3 聞いている人を見ながら話します

4 みんなに聞こえる声で話します

「考え方」

★「なぜ?」「どうして?」をみつけます

1 自分の意見とくらべて考えます

2 順じよに気をつけて考えます

「聞き方」

★目と耳と心で 聞きます

1 正しい姿勢で聞きます

2 相手の顔を見てうなずきながら聞きます

3 終わりまでしっかりと聞きます

東祖谷小学校 三・四年



小中合同研修のようす



「聞き方」「話し方」「考え方」のスキル表(小学校)